

地区別復興構想
田鶴浜地区

目次

地区別復興構想の策定にあたって-----	2
七尾市戦略的復興プランとの関連性-----	3
1 田鶴浜地区の現況の整理-----	4
2 地域の課題-----	8
3 復興まちづくりの方針-----	10
4 復興まちづくりに向けて考えられる施策-----	12

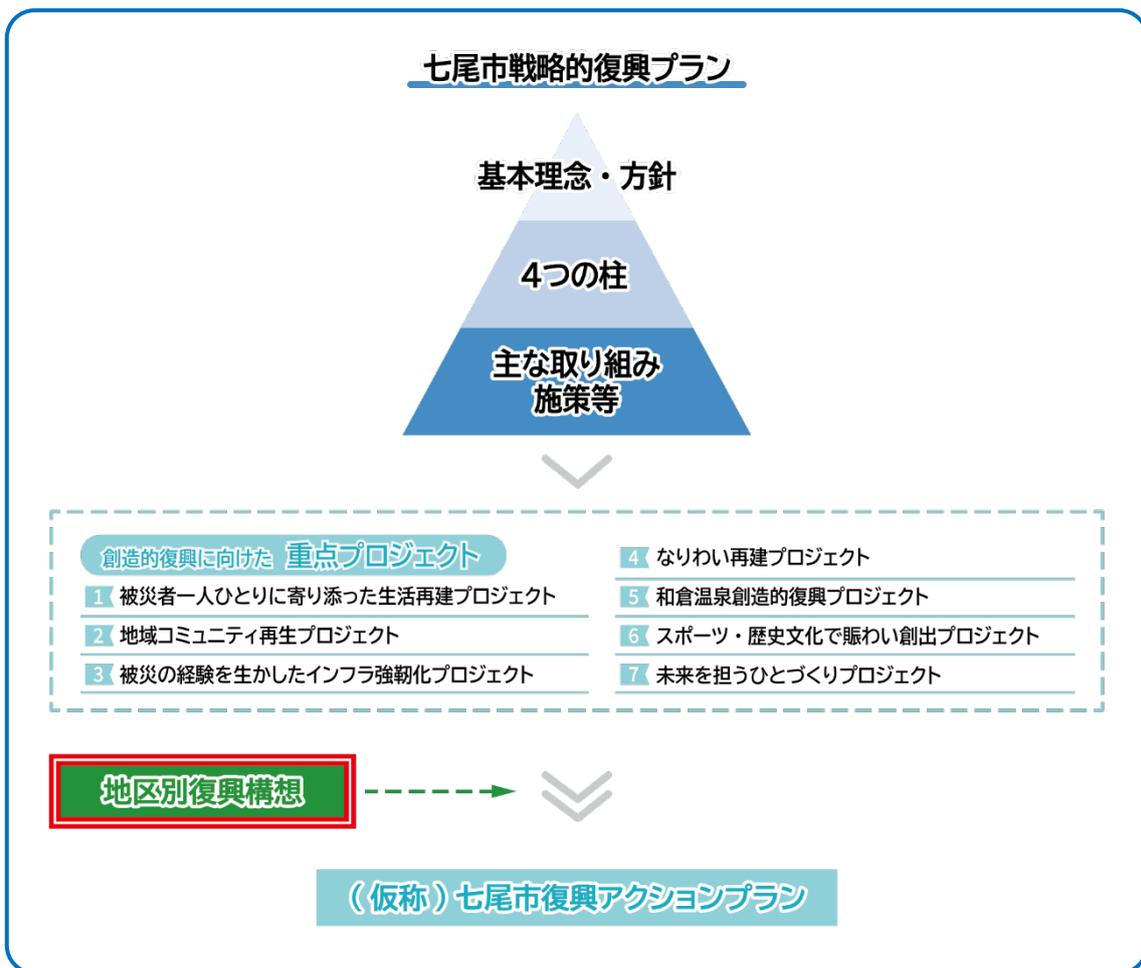
この構想は、復興に向けた課題と方向性を整理したものであり、今後七尾市として事業化の検討を行います。

地区別復興構想の策定にあたって

令和6年能登半島地震により甚大な被害を受けた本市では、震災からの復興に向け、さらに魅力あるまちへ発展していくため、令和7年2月に「七尾市戦略的復興プラン」を策定しました。

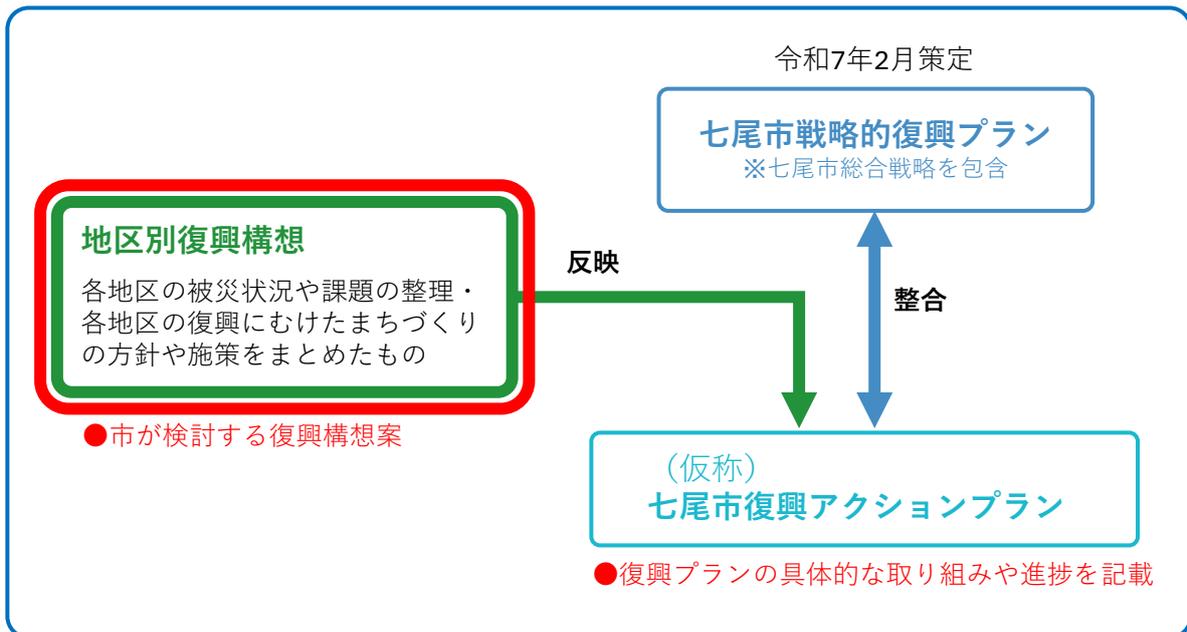
復興のまちづくりの将来像として「すべての暮らしと営みに幸せを～みんなの笑顔が輝くまち～」を掲げて、市民一人ひとりが主体となり、市民と行政が力を結集し、創造的かつ戦略的復興に向けて多くの取組みを実施する必要があります。

これらの取組みの着実な推進に向けて、市内全15地区の復興に向けた課題と方向性を整理した「地区別復興構想」を策定しました。本構想をもとに地域の復興への取組みを進めていきます。



七尾市戦略的復興プランとの関連性

市内の各地区において、それぞれの地域特性や被災状況に基づき、「地区別復興構想」を策定しました。これらの構想は、地域の再生と発展を目指すものであり、七尾市復興アクションプランに反映します。これにより、官民が一体となって連携し、創造的な復興を推進していきます。



今年度は、地区単位での復興を推進するため、課題や施策などについて地域づくり協議会と意見交換を実施しました。意見交換会では、「地域の現状と課題」「復興まちづくりの方針」「地域が重要と考える復興に向けた取り組み」に対して意見を伺いました。



1 田鶴浜地区の現況の整理

(1) 被災状況

七尾市の西部に位置し、令和7年10月末時点で人口4,124人の地区である。平成16年10月に、七尾市・田鶴浜町・中島町・能登島町が合併し現在の七尾市となる。

令和6年能登半島地震により、被災した住家の約35%が半壊以上の被害を受けた。また公費解体による住居解体が進んでいるため、今後空き地や空き家が増加する見込みである。また、上下水道の被害が他地区と比べて大きい地区である。そのほかの被害は以下のとおりである。

住宅	被災した住家の約35%が半壊以上の被害
公共施設	田鶴浜小学校は半壊判定により、校舎の建て替え工事予定 田鶴浜地区コミュニティセンターはホールや設備等において甚大な被害 そのほか公共施設においても、壁等の損傷、設備の故障、漏水等による被害が大きい
道路	液状化現象に伴い、田鶴浜駅から市街地中心部にかけて、亀裂・マンホールの浮き上がり被害が多く発生
護岸・河川	二宮川などの二級河川においては、大きな被害は確認されていない
公園・緑地	赤蔵山憩いの森、天神山親水公園、田鶴浜野鳥公園観察舎において被害が発生
その他	上下水道の被害が多数発生 白浜町、深見町、川尻町の農地において、地盤沈下に伴い塩害が発生 ため池被害が5か所で発生 農業用水路(六ヶ用水)において被害が発生

(2) 各種災害におけるリスク

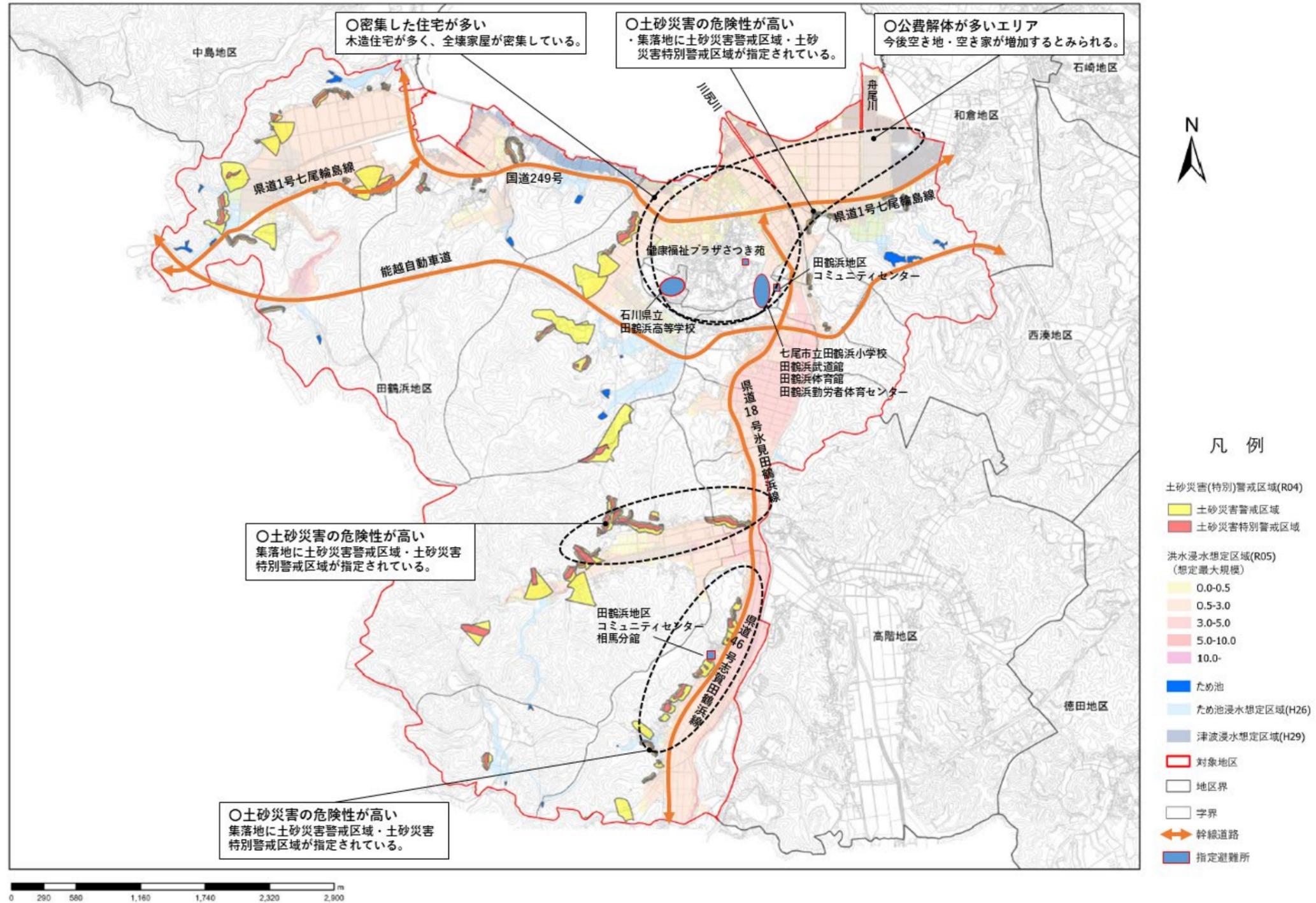
伊久留町・吉田町・七原町・西下町・舟尾町・三引町・大津町・深見町の一部集落では、集落地の一部が土砂災害警戒区域または土砂災害特別警戒区域に指定されており、被害が発生するリスクが特に高い状況である。

指定緊急避難場所に指定されている「ふれあい交流館金ヶ崎」は、崖崩れ、土石流および地滑りには対応しているものの、洪水・内水には対応していない緊急避難場所であり、大雨時に実質的に活用できない避難場所となる可能性がある。また、指定緊急避難場所の「田鶴浜地区コミュニティセンター相馬分館」「田鶴浜地区コミュニティセンター金ヶ崎分館」の2施設は、洪水・内水時にも活用を想定されている避難場所だが、想定最大規模の洪水では浸水が発生する可能性がある。また土砂災害警戒区域にあるため、災害時に活用できない可能性が高くなっている。

その他にも、以下のような災害リスクがある。

津波	海岸沿いで0~0.9m程度の津波による浸水リスクが想定
洪水	二宮川の氾濫により、浸水リスクが想定 (伊久留町、西下町、杉森町、高田町、田鶴浜町、新屋町、垣吉町、川尻町、舟尾町) 三引川・大津川・吉田川の氾濫により、浸水リスクが想定 (三引町、大津町、吉田町)
土砂災害	山側斜面(伊久留町・吉田町・三引町・七原町・西下町・三引町・大津町・深見町・舟尾町)で土砂災害リスクが想定
その他 (ため池氾濫など)	19か所のため池で氾濫リスクが想定 海側の平野部と二宮川沿いの平野部で液状化リスクが想定

現況分析 | 田鶴浜地区



地区別構想
田鶴浜地区

2 地域の課題

(1) 住宅 | 木造家屋の密集と被災、空き地・空き家の増加

田鶴浜駅から市街地中心部にかけては木造家屋が密集している地域で、低地は埋め立て地であるため液状化現象が発生し、住家の多くが被害を受けた。こうした地域では、今後、空き地や空き家の増加が予想されるため管理や活用について検討が求められている。

(2) 暮らし | 地域の見守り、子育て環境の充実、祭りの復活・存続

地域の高齢化に応じて、住民同士で互いを支えあう「見守り活動」への支援が必要とされている。また、田鶴浜地域の教育文化施設として重要な役割を担ってきた田鶴浜小学校は半壊の被害を受け、現在建て替えが進められている。また学校施設と合わせて子育てに向けた支援や環境整備が求められている。

地区唯一の診療所が地震の影響で閉鎖されたことに伴い、地区から医療施設が無くなった状況である。

令和6年および7年の住吉大祭では、道路の復旧が完了していなかったため山車の運行を取りやめた。住吉大祭以外の祭りも地域コミュニティの中核であり、祭りの復活・維持が求められている。

また、文化財に相当する地域資源をいくつも有しており、これらを活用した観光施策についても検討が求められている。

(3) 仕事 | 伝統工芸の技術伝承、農業生産基盤復旧による営農促進

伝統工芸「田鶴浜建具」があるが、地震による被害のほか、少子高齢化、後継者不足などによる人手不足や産業規模の縮小が進行しており、技術伝承が課題となっている。

また、高齢化や過疎化に伴う担い手不足により、耕作放棄地の増加が見込まれるため、新規就農者の確保が求められている。加えて、地盤沈下によって発生した塩害からの生活基盤の復旧も喫緊の課題である。

(4) インフラ・防災 | 道路・河川の復旧

集落地の一部や幹線道路の周辺が土砂災害警戒区域または土砂災害特別警戒区域に指定されており、人命や住宅および物資輸送路などが、特に大きな被害を受けるリスクが高い状況である。

洪水・内水時に利用が想定される指定避難所のうち、一部の施設で水害などの被害を受ける可能性があるため、避難のあり方を検討する必要がある。

令和6年能登半島地震による被害で道路や河川に被害が発生しており、早期復旧が求められている。

国道249号を中心に奥能登への中継地となっているため、大型車の交通量が多い。また、学生の通学路に道路の亀裂が多数発生しており危険な箇所も多いため対策が求められている。

(5) 交通 | 緊急輸送道路の通行機能確保

幹線道路周辺で土砂災害の発生リスクが高い場所があり、災害発生時に緊急輸送道路が機能不全に陥る恐れがある。地域住民の高齢化が進む中、医療難民・買い物難民への対応やコミュニティバスの利用頻度・利便性を鑑みて、地域状況に即した取り組みを確保する必要がある。また、学生の足として必須となっているのと鉄道についても、存続することが求められている。

3 復興まちづくりの方針

スポーツや音楽など様々な活動が行われ、赤蔵山・東嶺寺・野鳥公園・建具など価値のある地域資源も多く有している。これらの資源を活用しながら、地域と行政が連携して復興に向けた取組みを推進していく。

復興まちづくりの基本方針

(1) 住宅 | 居住の考え方

被災者が一日でも早く震災前の日常生活に戻れるよう、住まいの確保、心のケアなど、生活の再建に向けた取組みを進めていく。また復興公営住宅の整備やコミュニティの確保、被災宅地の復旧支援など生活再建に必要な住居の確保も重要である。危険空き家の解体や住宅の密集するエリアでは、耐震化や改修を促進し、安全に住み続けられる居住環境を構築する。加えて、空き家バンク制度の活用推進や自家菜園への活用など、空き地・空き家の管理不全問題への対処を検討していく。

(2) 暮らし | 生活利便性向上の考え方

地域に人が住み続けるためには、日常生活に必要な生活利便性の向上が必要であり、地域住民の見守り機能や医療サービスの提供を図る。

また、被害を受けた田鶴浜小学校の建て替えにより、未来を担う子どもを育て、地域がこれからも続いていくためのコミュニティを形成していく。あわせて子育て支援や子どもの遊べる場所の整備を通して、子育て環境の向上を図る。加えて、祭りはコミュニティ醸成における必要不可欠な要素であり、各地域の祭りの復活および存続を図り地区全体としてのコミュニティ強化を推進する。

(3) 仕事 | 産業の考え方

震災の影響や人手不足による地域産業の弱体化を防ぎ、事業の早期復旧および継続を促すため、個人事業主や中小企業へ向けた支援が必要である。特に農業においては、担い手不足や耕作放棄地、塩害への対策を講じていく。

(4) インフラ・防災 | 安全なまちづくりの考え方

将来の大規模な自然災害の備えとして、国道 249 号など主要な道路における迅速かつ効率的な物資輸送を確保することが重要である。

また木造家屋の密集するエリアでは、住宅などの耐震化や改修を促進し、安全に住み続けられる居住環境を構築する。また土砂災害の危険性の高いエリアでは、避難体制の強化など被害低減に取り組む。加えて、災害による個人や事業所が所有する井戸を災害時の代替水源として活用するための連携を進める必要がある。

(5) 交通 | 交通の考え方

災害が発生した場合にも物資を届けられるよう、土砂災害に対する被害抑制など緊急輸送道路の強靱化や、輸送経路の複線化を進めるとともに、災害に強い道路網の形成に取り組む。また、買い物難民や医療難民のための交通手段を充実させるとともに、のと鉄道の存続に向けた対策を講じていく。

4 復興まちづくりに向けて考えられる施策

令和7年2月に策定した「七尾市戦略的復興プラン」（計画期間：令和6～10年度）は、市全体の復興に向けた方向性を示したものである。そのため本構想は地区単位での復興を推進するものであり、課題や施策などについて地域づくり協議会と意見交換を実施した。

全2回の意見交換会では、「地域の現状と課題」「復興まちづくりの方針」「地域が重要と考える復興に向けた取組み」に対して意見を伺った。

意見交換会の概要

実施回	実施日	意見交換の内容
第1回	2025/5/23	<ul style="list-style-type: none"> ・震災後の地域づくり協議会の活動状況について ・地域が考えるまちづくりの現状と課題について ・地域がイメージする20年後のまちづくりについて
第2回	2025/7/31	重要と考える復興に向けた取組みについて



地域づくり協議会との意見交換会の様子

地域からの意見のなかで、優先順位の高い取組みを、「復興まちづくりに向けて考えられる施策」として以下に記載する。これらの施策と次頁の地図に整理された意見については、関係各課と協議のうえ、事業化に向けた検討を行う。

復興まちづくりに向けて考えられる施策

(1) 教育 | 子どもの遊び場づくり【くらし】

子どもの遊び場が不足しており、地域からのニーズが高い。特に、天候や季節に左右されず、いつでも利用できる屋内遊び場の整備が求められている。

(2) 交流 | 地域コミュニティ強化に向けた支援【くらし】

県内で唯一、医療・福祉系学科を有する専門高校である田鶴浜高校は、生徒による積極的な地域ボランティアを推進している。

石川県とも連携しながら、震災後の地域コミュニティの再生と強化に向けて、生徒の専門性を地域課題の解決に結びつける取り組みが求められる。

また人と人との繋がりや地域コミュニティを維持するため、復旧・復興を担う人材の確保や集会所などの復旧を支援するとともに、交流・関係人口の拡大にも積極的に取り組むことが求められている。

加えて、買い物難民・医療難民対策として、市内他地区や能登全域と連携しながら対策を講じる必要がある。

(3) 観光 | 伝統文化の保護・継続への支援【仕事・くらし】

地域の伝統文化を次世代に継承していくため、子どもたちが文化に触れる機会を増やし、地域で担い手を育てていくことが重要である。住吉大祭など地域の祭りや、伝統工芸である田鶴浜建具など、伝統文化を保護し、継承するための支援が求められている。

(4) 住宅 | 復興公営住宅を活かした地域づくり【住宅・福祉】

復興公営住宅の整備が計画されており、単なる居住機能だけではなく、住民同士のコミュニティ強化を促す交流機能など、複合的な機能を持つ復興公営住宅の整備が求められている。

(5) 防災 | 災害時の対応強化に向けた平時の体制整備【インフラ・防災】

災害時には、コミュニティセンターや体育館などの公共施設を、避難所として適切に機能させることが求められる。そのほかにも、避難所の耐震化や冷暖房整備、防災備蓄倉庫の設置といったハード整備だけでなく、平時から避難訓練などを実施し地域コミュニティを維持するなどの対応強化が求められる。

